

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21 年 1 月 30 日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム潮の香 (広島県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>延平 和子</u>
	氏名 <u>羽原 高代</u>
事業所側対応者	職名 <u>法人若葉総合施設長代行・管理者</u>
	氏名 <u>村上 美佐子</u> ・ <u>岡野 広邦</u>
	ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471300214
法人名	社会福祉法人 若葉
事業所名	高齢者グループホーム 潮の香
所在地	尾道市因島中庄町字油屋新開4804 (電話) 0845-26-2148
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日

【情報提供票より】(21 年 1 月 29 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 13 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 2 人 非常勤 10 人 常勤換算 5.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 5 階建ての 階 ~ 2 階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金)	有 300 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1300 円	

(4) 利用者の概要(1 月 29 日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	82 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	因島医師会病院、藤田医院、岡崎医院、ファミリー歯科宮地
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成 21 年 3 月 1 日

社会福祉法人若葉が母体であり、高齢者・障害者地域支援センターなどの総合福祉施設となっている。小学校が近隣にあり、時折元気な子供たちの声を耳にし、懐かしさを感じることができる。事業所は季節のお花があちこちに往けられ、家庭的なぬくもりのある共有空間で、広いテラスがあり季節の園芸を楽しむことができる。おむつをしないケアを実践し細やかなトイレ誘導で対応されている。また入浴は毎日でも可能であり常に清潔保持に努めている。食事についても地産のものを利用され、味付けも良く利用者が満足されている。地域の中でその人らしく暮らせるよう全職員が思いを共有し、笑顔と優しさのある事業所である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点については職員間で共有し、できることから取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義については職員は理解されているが自己評価については主に管理者が作成された。評価について管理者、職員は自己を振り返る機会とされ、全職員での取り組みに期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は事業所の状況により、不定期に開催されている。会議の中で近況報告や行事も兼ねて行っている。今後においては定期的な開催し、多くのメンバーからの参加を呼びかけ、外部評価及び自己評価結果について報告したり、事業所の問題点を提起し、沢山の意見をいただくよう取り組み、有意義な会議となるよう期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	生活相談員、苦情相談員を配置している。家族と職員で食事を開催し、その中でも意見要望、気づきなど聞くよう努めるとともに、訪問時にも不満や苦情を聞くよう雰囲気作り工夫し、それらを運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の周辺地域の行事に参加したり利用者の以前暮されていた地域との交流もされている。保育所の園児の訪問もあり、行事にも参加している。買い物や散歩などで挨拶をし近隣の方との交流に努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生まれ育った地域の中でその人らしく社会との交流を深めながら安心して暮らせるよう支援するという理念に基づいた目標が作成されている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、台所に掲示し研修会等でも唱和し、職員で共有され取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の周辺地域の行事に参加したり利用者の以前暮されていた地域との交流もされている。保育所の園児の訪問もあり、行事にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については職員は理解されている。自己評価については主に管理者が作成された。外部評価については改善点について周知徹底し取り組まれた。		自己評価について管理者、職員は自己を振り返る機会とされ、全職員での取り組みに期待したい。
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は事業所の状況により、不定期に開催されている。会議の中で近況報告や行事も兼ねて行っている。		運営推進会議を定期的で開催し、多くのメンバーからの参加を呼びかけ、外部評価及び自己評価結果について報告したり、事業所の問題点を提起し沢山の意見をいただくよう取り組まれ、有意義な会議となるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市町村担当者との関わりが多く、連携を取るよう働きかけ、情報や助言等もらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ケアプランや生活状況について報告し、定期的に潮の香だよりを配布している。職員の異動については写真の掲示でお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活相談員、苦情相談員を配置している。家族と職員で食事会を開催し、その中でも意見要望、気づきなど聞くよう努めている。それらの意見を運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えている。やむを得ず異動する場合は兼務する期間を設け利用者への配慮を重視している。法人内は普段から顔なじみの関係に努めた交流がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は月1回実施している。外部研修は希望を募り参加してもらい、研修内容は事業所内で周知され、質の向上に活かすよう努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の同業者と利用者とともに交流をしたり、他の事業所とも食事会などを開催し、交流を深めるよう取り組む予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設のデイサービスや体験利用し、徐々に馴染んでもらうよう努め、納得した上で利用開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	料理、家事等学ぶ場面がある。利用者の笑顔が見られるよう声かけに努め、お互いに家族のように支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	生活歴を把握し、希望や意向に沿うよう努めている。困難な場合は言葉や表情で察知し本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	第4火曜日職員全員で一人ひとりのニーズや課題について話し合いそれをもとに、家族の意見も取り入れ介護支援専門員と管理者で再度話し合い作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	通常月1回見直が行われている。状態変化で見直しが必要な場合は必要な関係者と話し合い現状に即した見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の状況や家族の要望で眼科、歯科の受診支援が行われている。また家族の宿泊の対応も柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診の支援がある。かかりつけ医との連携が密なので助言や指示など得られる体制ができている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を基に家族から同意を得、医療機関や家族の協力を得ながら、終末期に向け対応できる体制ができている。家族会で再度話し合う予定である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや羞恥心に対する配慮もされている。記録等の個人情報にも注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間は個々のペースでその人の希望に沿った対応するよう努めている。ドライブや外出などメリハリのある生活に努め希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は会話を十分に楽しみ笑顔いっぱいの食事風景でした。後片付け等力量に応じ職員とともにされている。流し台は2ヶ所ありゆったりして支援しやすい。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日はおおむね決まっているが、希望があれば毎日でも可能である。足浴など清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、ベランダ園芸など個々の役割が持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は利用者とともにしている。希望により喫茶店などにも行き、季節ごとの行事にも全員参加するなど戸外に出かける機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放している。夜間は防犯上施錠している。死角もなく常に見守りで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体で避難訓練を実施している。地域の協力も得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取について栄養バランスに気をつけている。利用者の意見を聞きながら献立をたてる場合もある。レパートリーも豊富で食べやすく食欲をそそるいどりで飲み込みやすい工夫もされている。水分摂取はここで把握し不足しないよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な共用空間で嫌な臭いもなく清掃にも気をつけられている。季節の花があちこちに活けられ落ち着いた共有空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの部屋には馴染みのあるものが飾られ、利用者にとって居心地の良い居室となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 高齢者グループホーム 潮の香

評価年月日 2009年 1月 30日

記入年月日 2009年 1月 22日

記入者 代表/管理者 氏名 岡野 広邦

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とは・・・今住んでいる潮の香のある「地域」、入居以前に住んでいた仕事で過ごした「地域」、生まれ育った幼少期を過ごした「地域」を考え、地域行事や小旅行などの活動を考えていく事が、その人らしさにつながるのではないかと考える。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム独自の倫理要項を作成し、玄関、台所に掲示、または法人の理念を玄関に掲示している。研修会等で唱和したり、話し合っている。	運営理念の大切さを自分自身の経験をもとに話しをして職員に理解をしてもらっている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域行事への参加などを行なう際には家族への了承などを取ったりしているが、具体的な取り組みや話し合いは行なえてない。	施設 = 認知症と言う考え方が地域の人たちの中に多いので施設 = 別荘という考えた。または家族とのいい関係を保てる家と認識してもらえよう様に地域の方の意識改革をしていかなければならないと思う。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買物や散歩などで近隣の方とお会いした時は挨拶を行なうように話しをしている。	地域の方の来訪はほとんど無いので、総合支援センター全体として考えて生きたい。管理者になって日が浅いので職場内が安定していないので、積極的にはできてはませんが仕事が流れに乗れば積極的に地域に出て自然な日常的なつきあいができるようには考えています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加は職員が行なっている。行事や地域活動は事業所地域と利用者さんが元居た地域の両方へ参加できるように活動している。	行事参加のみでなく趣味活動的なものへの参加も可能になるように努めたいので、まず職員が地域行事に積極的に参加し認知症という病気を理解してもらえようように交流をはかっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者がまずは自分の知人の家族等に話しをさせてもらい、社会福祉法人若葉には沢山のいろんな人材、職種、事業所があるので困った時には相談に来られてはと言っている。		総合支援センター全体としても考えて生きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後は評価表及び要点をまとめ、法人へ提出。事業所内での研修にて周知徹底し、改善に取り組む。		今回の評価も生かして生きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者さんの近況報告、行事等の報告を行い、主に事業所側職員以外からの意見を頂くように努めている。		報告事項が主になっているのでそれ以外の運営推進会議のあり方を計画作成者と考えていくつもりです。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	なるべく市役所に直接行くようにしているが、市担当者が事業所に来られたことはない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人の研修会や法人内の他事業所の職員と連携をとれるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修にて学習の機会を設けたり、会議などで話し合いの場を設けている。		今後も徹底していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書について説明を行い、一度持って帰ってもらいご自宅でもじっくり読んで頂く様に努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活相談員、苦情相談員を配置し、利用者さんからの要望があった際には大きさに関わらず会議にて情報を流し（必要に応じて匿名にて）改善に努める		GH職員以外に話しのできる機会を設けたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月中旬に「ケアプラン」に生活状況を、「潮の香だより」に写真を掲載し、配布している。また家族の来訪時には職員から口頭にて近況報告をしている。		より家族にわかりやすく尚且つ利用者さんに沿ったケアプランを検討中
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活相談員、苦情相談員を配置し、入居者や家族に説明をしている。また法人内に評議員を設けている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	第2火曜日に運営会議を行い、行事や購入物、運営方針の話し合いを行なっている。また第4火曜日にはケア会議を行い利用者さんのケアに関する事項の話し合いを行なっている。		潮の香では職員一人一人が色々なことを積極的に挑戦をしてみるように声をかけていて、よい結果であればそれをもっと深く掘り下げ発展させている。あまり効果が出ない場合のときは反省をし問題点を探してまた次に生かすようにしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤が1名体制のため、利用者さんの体調不良時には1名増員を行い対応している。		総合支援センターとして宿直者も1名配置済み。これから終末期に備えて体制を検討中。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職は極力抑えている。また家庭の都合などで離職した職員も時々か顔を見せてくれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内学習会を開催している。また必要に応じ法人に届いている研修会の案内の情報を流している。		来年度より内・外部研修を検討中
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH花園さんの利用者さんが潮の香にいられて交流会を開きました。暖かくなったら潮の香の利用者さんが今度は訪問する予定。		因島のグループホーム職員の顔合わせができるように食事会を調整中。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ある程度自由の利く勤務体制を組み、体調や家庭の事情に応じ臨機応変に対処している。		4階に休憩室をつくり30分の休憩時間を設けている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	新たな取り組みの提案があった際には利用者さんへの不利益が生じない範囲での実施を行なっている。		職員のマンネリ化がおきてないか、検討する必要がある。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主治医や担当ケアマネなどと一緒に話しをする機会を設ける。また、それ以外に相談があった際には秘密保持（必要時応じ利用者さんと管理者とケアマネのみ）し、対応している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主治医や担当ケアマネなどと一緒に話しをする機会を設ける。また、それ以外に相談があった際には秘密保持（必要時応じ家族と管理者とケアマネのみ）し、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、利用者さんに必要とされるサービス事業者、管理者、計画作成者、職員の話し合いの場を設けている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空き部屋のある場合は数日間の体験入居という形を取り、潮の香に馴染めるよう配慮している。		今後ディサービスと利用者さんが長期入院した時にショートステイを考えており、急に潮の香に入所という形ではなくゆっくり慣れてもらいながら自然な流れで入ることができるように体制を作っています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時に対等、時には上下があったりしながら利用者さんが職員に対し相談などをしたり、その逆に職員が利用者さんに相談をしたりしている。		職員と利用者さんが潮の香で家族のようにお互いを支えあう関係・場所を作っていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の一方向的な意見を言わず、助言として本人を支えていく事をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居までの関係を把握し、家族への対応に配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅支援や地域行事への参加への対応を柔軟に行なえるように心がけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士がよい関係を保てるように日々の中や会議内にて話し合いを設けている。		関係は日々変化しているので、今後も努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談に柔軟に対応している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議などで「本人の思い」を「本人の言葉」で情報を流し把握、検討している。		言葉としてだけでなく、内にある思いも汲み取りたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の作成		入所された時は生活歴を知る事でその人の育った環境、病歴等を知る事ができケアにも活かされましたが年を重ねるにつれてその当時言えなかった事ができて、その思いを汲み取り今の利用者さんに必要なケアをして行きたいと思う。またゆっくり利用者さんと落ち着いた時間を共有して行きたいと思う。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケア会議での情報把握。利用者さんに心身の状況は変化があった際には専用の連絡ノートを作っているためより詳しく状況を把握できるように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者を主とし、各利用者さんに1名ずつ担当者や配置、各担当者が中心となり、ケア会議などで本人の状況やケアについて話をしている。またその際に本人や家族からの要望を盛り込めるようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヵ月に1回介護計画作画書を作成しているため、今まで臨時に大きく計画変更をした事はない。もしそのような状況（大きな病気で入退院など）が生じた際には柔軟に対応して行く。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前回の外部評価後に書式を変更し、運動量などを把握しやすいように書式変更をしました。		簡潔でより分かりやすい記入方法を作成中
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族の来訪に関しては、寝具などを貸し出し、本人の部屋に泊まれるようにしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	主に地域の保育所との連携をとり、遊びに行ったり、お手紙を頂いたりしている。(芋パーティー、クリスマス会に参加)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の居宅介護支援事業所への相談や連携、また必要に応じ以前担当されていたケアマネとの情報交換も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までに行なった事はない。		具体的にどのように協働すればよいかを検討。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	終末期において家族、主治医、事業者との話し合い、対応を詰めている所。また、通常時においても家族の希望を聞き、家族、主治医、事業者の連携も持っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人の嘱託医等に必要に応じて相談、助言を求める。また必要に応じ専門医や精神科医への連絡を行なっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月、金曜日に1時間、看護職員（併設の高齢者デイサービス介護勤務）のバイタルチェックを受け、情報交換アドバイスを頂く。（その他の日は潮の香の職員が毎日バイタルチェックをする体制を作っている。）		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院前～中～後にかけて入院期間との経過や調整を行い、退院日時が決まればスムーズに受け入れられるように調整を行う。入院中の経過や退院時の情報は連絡ノートや会議の際職員へ連絡する。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	大まかな話はしているが、一人ひとりに関した終末期の明確な取り決めは行なわれない。		事業者、職員で職員配置や対応等について話す必要がある。 また事業者、職員、主治医、家族で最終的な対応を決める必要がある。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、主治医、事業者にて今後の体制について話し、医療機関、主治医への、連絡方法、対応を聞いている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時にはご自宅へ訪問し、自宅の間取りや雰囲気把握している。GHからの転居に関しては事例はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>会議等で話をし、プライバシー、尊厳の保護に努めている。またそのような事例が発生した場合には注意、訂正をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>状況に応じ口頭、文章（ポスター）などを使い分けている。自己決定を求める際にはなるべく時間をかけて行なうようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の出勤者の範囲内で対応できること（外出等）を行なっている。またそれ以外にも、緊急時やあらかじめ分かっている動きに関しては調整、または臨時の出勤を行い対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きなれた理美容室へ行けることを説明している。（実際には「近いほうが楽」などの理由で行きつけの店にいかれているのは2,3名）</p>	<p>今後は家族と相談の上、出張の理美容サービスを使用予定</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日により個人が好きなものを取り入れたり、買物と一緒にいかれた際に利用者さんの希望により献立が変更されるなど、柔軟に対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>書式としてはないが、日々の会話の中でそういう話をしている。またその内容は会議などで話をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>基本的には体調不良以外は（職員意向による）オムツの使用はしていない。また使用する際には本人が納得された上で使用している。</p>		<p>利用者さんも高齢化が進んでいるので試験的にポータブル、リハビリパンツ等の使用をしながら本人らしさを応援している。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴時間は14：30～17：30ごろまでと一応決めているが、希望や失禁対応などに応じ柔軟に対応している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個人の休息や睡眠を妨げないようにその他の利用者さんへの対応を心掛けている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活歴を作成し、日々の生活や会話に生かせるようにしている。また、その会話などから新たに情報をえた際にはそのことを会議などで共有している。</p>		<p>まだまだ本人さんのことの”一部”しかわかってないと思う。先入観をもって接するのではなく、その人のできることを見つけ出せる力を作っていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理については制限はない。必要に応じ家族から財布の中身をお聞きしたり、送金に関して情報を頂いたりして、金銭トラブルのないように努めている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>突発的な外出にも、他の利用者さんへ不利益がない様に対応している。事前に分かっている外出に関してはあらかじめ勤務表で調整し、職員で対応している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>クラス会や親戚の家、友達の家にいかれる際には家族と連絡を取り安全に参加できるようバックアップ体制をとっている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話などの制限はなし。電話や手紙に関しても一部手伝えることや投函などを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外来者が気持ちよくこれらに対応することを職員に徹底している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しくは理解しているかわからないが、開所から身体拘束はしていない。		勉強会の開催
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員側からは防犯の為夜間玄関の施錠以外に鍵をかけることはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に居られる時にも安全確認のため、本人や他利用者さんに気づかれないように安否確認を行なっています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品がある場合にはまず外見を変えたり、職員が必ず側で対応するなどをして対応している。		突発的に起こる異食行動などを想定した環境づくり
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議などで情報を共有し、事故防止に努めている。緊急で必要な事項は連絡ノートや電話で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期ではないが、対応について勉強したり、外部研修の情報を流したり、教本や対応などについてのマニュアルを用意している。		緊急時にはすぐ動けるように、定期的な勉強会。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回。総合支援センター全体で行なわれている。		GH協会などが主催する防災対策セミナーに参加予定
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に説明をさせてもらっている。発症などの新たなリスクに関しても連絡をし、状況を説明、把握、承諾をもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を感じた際には上司への報告、必要に応じ医療機関への連絡、救急搬送を行なっている。また長期的な病変や体力低下に関しては、専用の連絡ノートを作成しているので連絡を密にしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時に増えた薬は連絡ノートにて職員に連絡。副作用などがある際には顔色に注意するようになどの情報を流している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が長期続く際には連絡ノートに記入し、水分補給や頓服薬の服用、入浴時のマッサージを行なっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや支援などを行なっているが。		職員間で徹底できるように現在している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事での水分補給が少ない方には食後の一杯をお出しするなどして対応している。またその情報をワークシートや連絡ノートに記入している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	各マニュアルを作り、流行時期には情報を流している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ものの使用には注意をし、警報が出た際には特に注意し、食中毒予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	総合支援センター正面玄関に案内板を設置している。		まだ認知度が低いのでどの様にすればいいかを検討中
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	展示物や掲示物は季節に応じ変更している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、憩いの部屋、椅子を設置し、好きな場所で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用している家具は使い慣れた物を搬入し、使用を促している。安全の範囲で自由に使って頂いてる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温や換気には配慮しているが、構造上難しい部分もある。(はめ殺しの窓など)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやウレタン材を使用し、怪我の防止に努めている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々混乱や失敗を防げるように支援し、突発的な混乱や失敗にも個別に対応できるように努めているが、構造上難しいときもある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスでは、お茶会や焼肉、夏祭り、子供さんたちと遊んだり活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)